

日本教師教育学会 第 29 回研究大会

大会テーマ：教員養成・教師教育研究の高度化

大会プログラム



会期：2019年9月21日（土）-22日（日）

※20日（金）15時より研究倫理規程公開研究会（参加自由）

会場：岡山大学教育学部

主催：日本教師教育学会

後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山大学

日本教師教育学会第 29 回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 尾上 雅信

日本教師教育学会第 29 回大会は、2019 年 9 月 21 日（土）・22 日（日）に岡山大学で開催することとなりました。岡山大学はもちろん、中国地方での開催は初めてのこととなります。

岡山大学は、その設立の母体と経緯により、大きくは津島キャンパスと鹿田キャンパスに分かれております。会場は、大学本部をはじめ多くの学部と教育研究施設が集まる津島キャンパスにあります、教育学部の本館と講義棟を予定しております。

津島キャンパスには、文学部・法学部・経済学部・理学部・工学部・環境理工学部・農学部などがあります。教育学部の母体となったのは岡山師範学校・青年師範学校であり、文学部と理学部の母体となったのは第六高等学校です。これらの学校を統合するため、岡山市内に広大な敷地を残していた旧陸軍の軍用地を活用して出来上がったのが、現在の津島キャンパスです。そのため前身となった諸学校の遺跡・史跡は残念ながら、このキャンパスには残されておられません。師範学校跡地には現在も附属学校園が存続し、また第六高等学校跡地は県立高等学校の敷地として利用されています。

今回の大会テーマは、「教員養成・教師教育研究の高度化」です。大会実行委員会では、本学会の強みのひとつが教科固有の実践知と力量形成を「教師教育」というプラットフォームで共有できることにあると考え、とくに「教科指導に係る教師の実践的
力量形成」というトピックで迫りたいと考えているところです。その詳細は次頁の「大会テーマ：教員養成・教師教育研究の高度化」に詳述しておりますのでご確認ください。

本大会の着地点のひとつは「より優れた教科の実践的指導力とは何か？」、「その実践的指導力を培う仕組みとコンテンツはどのようにあるか？」という問い掛けに何らかの回答を提示することにあります。今大会を機会に、この問いをめぐる会員相互の積極的な参画を頂ければと思います。

会場となる津島キャンパスの教育学部には J R 岡山駅からバス利用となり、路線にもよりますが、アクセスは良いところです。教育学部の会員をはじめ、院生・学部生、さらには、近隣大学の会員の方々にも応援をお願いして、企画・運営・実施にあたりたいと思います。

9 月下旬、未だ残暑も厳しく、また台風シーズンでもあります。心配ですが、大会実行委員会一同、心がけを良くして準備に勤しみますので、多数の会員のみなさまのご支援、そしてご参加をお待ちしております。

大会テーマ

教員養成・教師教育研究の高度化

教員養成・教師教育研究の高度化には2つの視角が必要です。ひとつは既存の教員養成教育や教師教育研究の準拠枠を解き明かし、その枠組自体を問い直す視角です。いまひとつは、このようなメタ分析的関心を共有し、現に動きつつある実態に分け入って課題を詳らかにする視角です。本学会はまさにこの2つの視角を往還しつつ、より質の高い教員養成・教師教育研究を求め、その成果を世に問うてきたと言って良いでしょう。

本大会では「教員養成・教師教育研究の高度化」というテーマを設定しました。これと連動する大会校企画では「教科指導に係る教師の実践的力量形成」という副題を掲げたシンポジウムを開催し、「高度化」の内訳に迫りたいと思います。

これまで本学会の研究推進・若手支援企画の取組が明らかにしている通り、本学会の強みのひとつは、教科固有の実践知と力量形成を「教師教育」というプラットフォームで共有できることにあります。このトピックに関連する課題をざっと並べてみます。

- ①若手教員の急増に伴う授業の質保証
- ②①を支える校内研修・校内 OJT チームの組織化と運用
- ③教員養成教育の DP と教員育成指標の「採用時に求める姿」との関係
- ④拡充期を迎えた教職大学院における「教科の指導力向上」への対応
- ⑤④に係る教科教育研究者のアイデンティティの揺らぎと再構築
- ⑥新免許法における教科教育と教科内容の融合科目とその実質化
- ⑦教職大学院の履修証明制度を活用した現職教員の教科指導力向上
- ⑧指導教諭を活用した校内研修（授業改善）の高度化
- ⑨学術研究の成果を踏まえた「教科」の枠組の再考

以上のように、現実的な議論を必要とする、ミクロレベルからマクロレベルまでの様々な課題が浮かび、それぞれを丁寧に解きほぐしつつ、繋いでいく努力が必要となります。

「教員養成・教師教育研究の高度化」の着地点のひとつは、「より優れた教科の実践的指導力とは何か?」、「その実践的指導力を培う仕組みとコンテンツはどのようにあるか?」という問いに何らかの回答を提示することにあります。中国地方で初めて本学会研究大会を開催するこの機会に、この問いをめぐる会員相互の積極的な参画を頂ければと思います。

日本教師教育学会第 29 回研究大会要領

主催：日本教師教育学会 後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山大学

1. 大会テーマ

「教員養成・教師教育研究の高度化」

2. 会期

2019年9月21日（土）-22日（日）

※大会前日の20日（金）15時より研究倫理規程公開研究会（参加自由）

3. 会場

岡山大学教育学部（〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 津島キャンパス）

4. 交通案内

■岡山空港から

岡山駅行「特急」リムジンバスで「岡山大学筋」下車後、徒歩15分。

※ノンストップで終点の岡山駅まで行くものもありますのでご注意ください。

■JR 岡山駅からバス利用の場合

(1) 運動公園口（西口）バスターミナル22番乗場から【47】系統「岡山理科大学」行（岡電バス）で「岡大東門」下車後、徒歩1分。

※この便が最も便利です。

(2) 後楽園口（東口）バスターミナル7番から【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行，【26】系統「岡山医療センター国立病院」行，【36】系統「辛香口」行，【86】系統「運転免許センター」行のいずれかに乗車し，「岡山大学筋」で下車（約10分），降車後徒歩15分かかります。

■JR 法界院駅（津山線・岡山駅9番ホームへ乗換後，ひと駅）から徒歩10分。

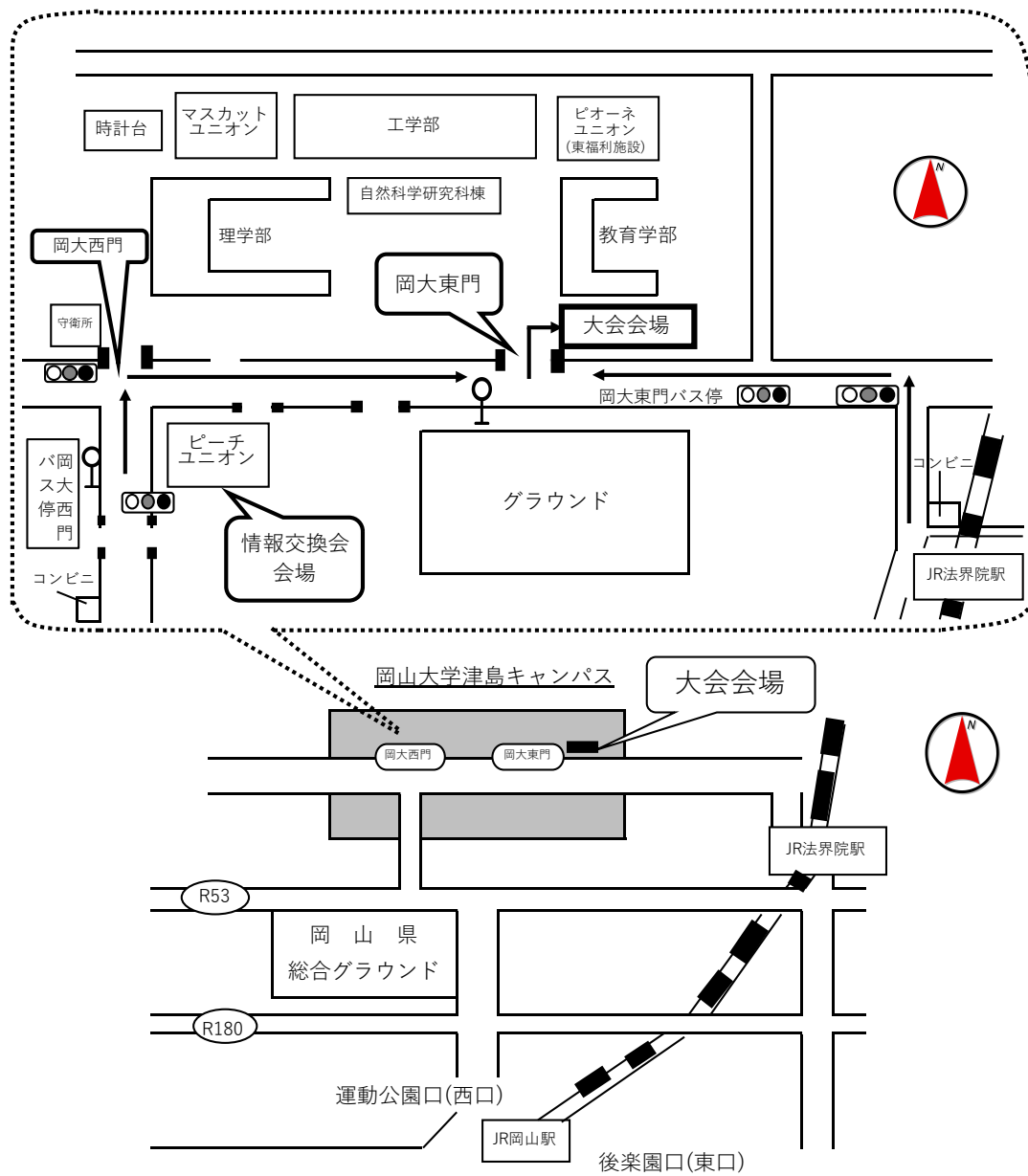
■タクシー：岡山駅運動公園口（西口）広場2Fタクシー乗場から約10分。

■自家用車は学内に駐車できますが，有料（終日駐車は最大1,000円）です。

その他，アクセスの詳細は，本学の下記サイトをご参照ください。

→ http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

5. 大会会場案内図



- JR 岡山駅西口バスターミナル 22 番から【47】系統のバスに乗車し、「岡大東門」バス停で下車後、徒歩 1 分です。
- 上記のバスは津島キャンパスを左回りに迂回し、近隣の岡山理科大学を經由後、「岡大東門」に向かいます。誤って先に「岡大西門」で下車しますと、会場まで徒歩 10 分程度かかりますのでご注意ください。なお、岡山理科大が終点となる便もありますのでご注意ください。
- 会期中の昼食は、岡大生協マスカット・ユニオン（土のみ）とピーチ・ユニオン（土日）をご利用頂けます。
- 情報交換会は、岡大生協「ピーチ・ユニオン 4 階レストラン」で開催します。

6. 日程

9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
		8:30-	受付開始	8:30～	受付開始
		9:00-12:00	自由研究発表(1) 研究推進・ 若手交流支援企画	9:00-12:00	自由研究発表(2) ポスター発表
		12:00-13:00	昼食	12:00-13:00	昼食
		13:00-13:30	研究倫理学習会	13:00-16:00	課題研究・ 特別課題研究
14:00-14:45	研究部会	13:30-14:45	総会	16:30-18:00	ラウンドテーブル
14:00-16:30	年報編集委員会				
15:00-16:30	研究倫理規程 公開研究会	15:00-18:00	公開シンポジウム		
17:00-20:00	理事会	18:30-20:30	情報交換会		

7. 大会参加費・情報交換会費

		会員参加費	非会員参加費	情報交換会費
事前申込の場合	一般	2,000円	2,500円	4,000円
	学生	1,000円	1,500円	2,500円
当日支払の場合	一般	3,000円	3,500円	4,000円
	学生	1,500円	2,000円	2,500円

- 現職教員の方で大学院生の身分を有する方は学生扱いとなります。当日は学生証をご用意ください。
- 事前申込にて大会参加費や情報交換会費を振り込まれる場合は、9月13日(金)までに大会実行委員会の指定口座までお振り込みください。口座番号等は大会HPをご確認ください。→ <https://29th.jsste.jp/registration/>
- 9月14日(土)以降は振込できません。期日までにお振り込みのない場合は、大会当日に「当日支払」の金額を受付にてお支払い頂くことになり、割高となります。

8. 学会費について

学会費の納入について、2019年度及び過年度の学会費の納入をお願いします。事情により未納の方は、当日、受付(1階ロビー)に学会事務局デスクを設置します。そちらで納入してください。

9. 自由研究発表・ポスター発表について

- 個人発表と口頭発表者が1名の共同発表は30分（発表20分，質疑10分），口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分，質疑15分）です。
- 発表取消があった場合は，以降の発表を繰り上げることはせず，その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
- 各分科会とも，発表と質疑の終了後，残り時間に応じて（最長で12時まで）全体討議を行います（発表者の少ない分科会は30分～1時間程度）。
- 発表者は，全体討議が終了するまで，分科会の会場に在席してください。やむを得ず事前に退席する際は，事前に司会者にその旨を伝えてください。
- 発表者と司会者は，分科会の開始10分前には発表会場に集合し，簡単な打ち合わせを行ってください。
- 分科会の発表では，次のように計時します。
 - 個人発表及び口頭発表者が1名の共同発表の場合
1鈴：15分 2鈴：20分 3鈴：30分
 - 共同発表の場合
1鈴：30分 2鈴：35分 3鈴：50分
- ポスター発表は9月22日（日）9:00～12:00まで3階5307教室に設定します。
A1×2枚以内（縦置）でお願いします。

10. 発表会場の機材について

- 全ての会場にプロジェクターとスクリーンを設置しています。次頁の「12. 分科会等会場一覧」でご確認ください。
- 各会場とも接続はVGA（アナログ端子RGB D-Sub15ピン）とHDMIです。ケーブルは各会場に備え付けのものをご利用ください。
- 発表に必要なノートパソコンや，ケーブルとの接続に必要なアダプタ類は各自で持参ください。
- VHSテープによる動画再生には対応していません。
- 分科会開始前に，必ず各自使用される機器との接続のチェックをしてください。
- 学内Wi-fiへの接続はできません。必要な方は各自Wi-fiルータ等を持参ください。

11. 発表資料について

- 自由研究発表の発表資料等は，60部程度を各自でご用意いただき，当日の分科会の開始10分前までに会場のスタッフに提出してください。
- 課題研究，特別課題研究，ラウンドテーブル等の発表資料は，各自で必要部数をご用意のうえ，開始時に企画者が配布してください。
- 大会事務局では，発表資料等の追加の印刷はできかねます。また発表資料の事前送付も受け付けておりません。なにとぞご了承ください。

12. 分科会等会場一覧

棟	階	室番号	収容人数	21日(土)		22日(日)	
				午前	午後	午前	午後
講義棟	1階	5101	114	会員控室・書籍販売			
		5102	120	研究推進・ 若手支援交流企画			課題研究3
		第2会議室		大会実行委員会控室			
		第3会議室		学会事務局			
		非常勤講師控室		クローク			
	2階	5202	311		研究倫理学習会・ 総会・公開シンポ		特別課題研究2
		5204	24	託児室			
		5206	84	第1分科会		第10分科会	
		5208	88	第2分科会		第11分科会	課題研究1
	3階	5301	42	第3分科会		第12分科会	
		5304	63	第4分科会		第13分科会	
		5307	42	第5分科会		ポスター発表	ラウンドテーブル①
	4階	5403	64	第6分科会		第14分科会	
		5404	70	第7分科会		第15分科会	特別課題研究1
		5405	77	第8分科会		第16分科会	課題研究2
		5407	42	第9分科会		第17分科会	ラウンドテーブル②

○室番号は、100の位が「階」を表します。例えば「5304教室」は「3階」になります。

13. 研究倫理学習会ならびに定期総会

9月21日(土)13:00~13:30に研究倫理学習会を行います。また、これに引き続いて13:30~14:45に定期総会を行います。会場はいずれも講義棟2階5202教室です。会員の皆様の参加をお願い致します。

なお、大会前日の20日(金)15:00~16:30には、「研究倫理規程を考える公開研究会」を講義棟4階5403教室で行います。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

14. 公開シンポジウム

○テーマ：「教員養成・教師教育の高度化 —教科指導に係る教師の実践的力量形成」

○日時：9月21日（土） 15:00～18:00 2階 5202 教室

○シンポジスト： 武田 信子（武蔵大学）

松友 一雄（福井大学）

吉村功太郎（宮崎大学）

○司 会： 紅林 伸幸（常葉大学）

高瀬 淳（岡山大学）

15. 情報交換会

9月21日（土）18:30～20:30 に会員相互の情報交換と親睦を深めるため、キャンパス内の大学生協「ピーチ・ユニオン 4階レストラン」にて情報交換会を開催します。参加者数把握のため、事前のお申し込みを頂ければ幸いです。岡山ならではの各種お飲み物、お料理をご用意致します。皆様のご参加をお待ちしております。

16. 課題研究／特別課題研究／研究推進・若手交流支援企画

○9月21日（土）9:00～12:00

研究推進・若手交流支援企画（1階 5102 教室）

「教師教育者」の実践と葛藤 —教師の力量形成における教科教育の役割

○9月22日（日）13:00～16:00

課題研究Ⅰ 教師教育研究の成果と課題の検討 (5208 教室)

課題研究Ⅱ 教師教育改革の国際動向と比較研究の課題 (5405 教室)

課題研究Ⅲ 教師教育『高度化』の政策的検討 (5102 教室)

特別課題研究Ⅰ 防災・学校安全と教師教育 (5404 教室)

特別課題研究Ⅱ 大学教育と教職課程 (5202 教室)

17. ラウンドテーブル

○9月22日（日）16:30～18:00

①日本教師教育学会における質的研究についての再検討 (5307 教室)

②教師養成と子ども文化（3）遊ぶことができる教師がいなくなった

—令和新時代にむけて (5407 教室)

18. 昼食について

会期中、両日とも、学内生協食堂のピーチ・カフェテリア（西門近く。土日営業）とマスカット・カフェテリア（附属図書館近く。土曜のみ）を利用できます。また21日（土）には岡山大学筋の岡大入口付近にあるJテラスカフェも利用できます。コンビニは大学周辺に2～3店あります。適宜ご利用ください。

19. 託児について

大会1ヶ月前まで、お申し込みを受け付けています。詳しくは大会HPをご確認ください。<https://29th.jsste.jp/outline/>

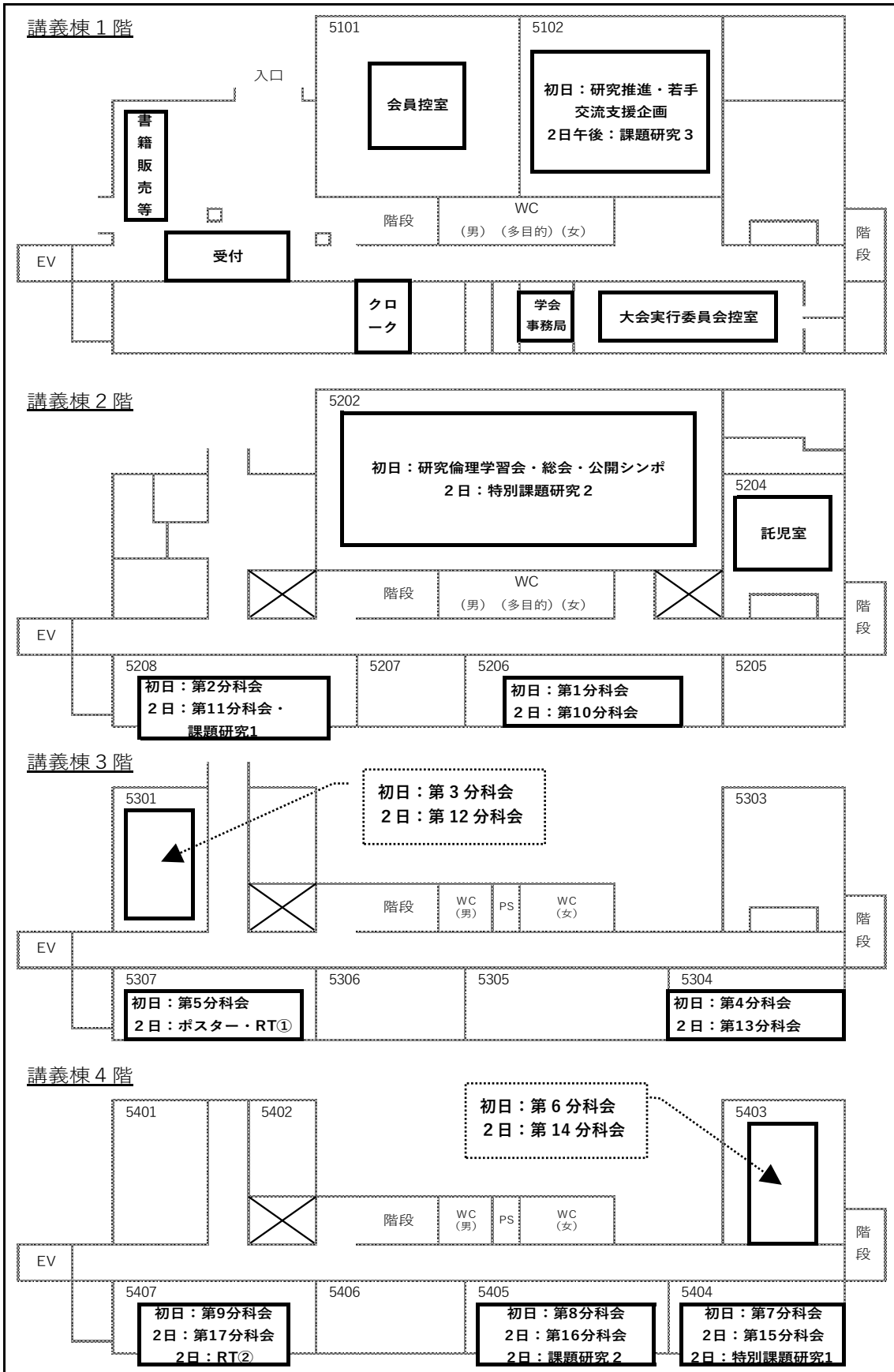
20. 書籍販売

書籍販売については、大会要旨集録の刊行に際し、ご協賛頂いた出版社・企業に限定させて頂いております。発表者による会場での著書の販売はご遠慮ください。

21. その他

本学では校地内禁煙となっており、喫煙スペースがございません。なにとぞご理解ください。

フロアマップ



9月20日（金）大会前日

研究倫理規程を考える公開研究会

開かれた教師教育学における開かれた研究倫理の可能性

研究倫理規程ワーキンググループ

担当理事：紅林伸幸

【趣 旨】

9月20日の総会で提案される研究倫理規程の採決直前の研究会として、なぜ今教師教育に研究倫理が求められているのか、どのような倫理が求められているのかを明らかにする。また、学会という閉じた研究コミュニティの「外部に開いたコミュニケーションのあり方」を示すものとしての倫理規程について考えたい。

【司 会】 紅林 伸幸（常葉大学）

【報告者】

1) 蔵原 清人（工学院大学・名誉教授）

今求められている教師教育の研究倫理

2) ワーキンググループ報告：教師教育学の研究倫理における主要論点

(1) 羽野ゆつ子（大阪成蹊大学）

フィールドワーク型研究における「倫理的許容度」と「他者配慮性」

(2) 長谷川哲也（岐阜大学）

協働の「教員育成」における接続点としての教師教育研究

3) 意見交換

9月21日（土）大会第1日

自由研究発表（1）

研究推進・若手交流支援企画

研究倫理学習会

定期総会

公開シンポジウム

司会：高谷 哲也（鹿児島大学）
八尾坂 修（開智国際大学）

9：00～9：30

教員育成指標が教員養成に投げかける課題についての一考察

○平山 静男（筑紫女学園大学）

9：30～10：00

教育工学的な視点に基づく教師教育プログラムの事例集の作成と公開

○木原 俊行（大阪教育大学大学院）

10：00～10：50

教員育成指標策定後の再編過程に関する研究

－教員育成協議会（総称）の審議項目に着目して

○大竹 晋吾（福岡教育大学）

○藤本 駿（くらしき作陽大学）

○牛渡 亮（宮城教育大学）

10：50～11：40

規制緩和と「開放制」の構造変容－小学校教員養成を軸に－

○岩田 康之（東京学芸大学）

○大和 真希子（福井大学）

○早坂 めぐみ（秋草学園短期大学）

米沢 崇（広島大学）

山口 晶子（東京学芸大学・非常勤）

藤田 里実（大手前大学・非常勤）

11：40～

全体討議

司会：別惣 淳二（兵庫教育大学）
油布 佐和子（早稲田大学）

9：00～9：50

大学生の教育実習経験による教職観の変容

○川村 拓也（静岡大学大学院・院生）
○中村 賢晴（静岡大学大学院・院生）

9：50～10：40

教師の『観』の転回を促す省察的实践に関する研究

－教師の「観」の自覚化と子どもの学びの深化－

○畔上 一康（信州大学）
○宮島 新（信州大学）
吉澤 裕一
（信州大学教育学部附属長野小学校）

10：40～11：10

教師の学習過程に関する研究～観の編み直しの契機に着目して

○吉永 紀子（同志社女子大学）

11：10～11：40

教員の指導性と主体性を導く研修方法の研究

○小柳 和喜雄（奈良教育大学）

11：40～

全体討議

司会：赤沢 早人（奈良教育大学）
矢野 博之（大妻女子大学）

9：00～9：30

アメリカの教員養成改革におけるボストン教員レジデンシーの展開・実態・課題

○高野 貴大（筑波大学大学院・院生）

9：30～10：00

教師の単元展開の実践的思考の研究

○坂井 清隆（福岡教育大学）

10：00～10：30

「深い学び」を実現するためのマルチプル・インテリジェンス理論の活用・検討

○清水 凌平（京都教育大学大学院・院生）

村上 忠幸（京都教育大学）

村井 尚子（京都女子大学）

10：30～11：00

「深い学び」を実現するための「理論－実践－評価モデル」の検討

○村上 忠幸（京都教育大学）

11：00～11：30

教科の親学問科目担当者の力を「スイングバイ」し教員養成を充実させる方法
について

○三村 和則（沖縄国際大学）

11：30～

全体討議

司会：太田 拓紀（滋賀大学）
子安 潤（愛知教育大学）

9：00～9：30

学校教育におけるA I の応用と教師教育

○張 建（東京電機大学）

9：30～10：00

プログラミング教育を通じた教員養成

○原田 恵理子（東京情報大学）

10：00～10：30

社会正義と教師教育実践におけるセルフ・スタディ（S-STEP）

○齋藤 眞宏（旭川大学）

10：30～11：00

学び続けられる教師のライフ・ストーリー

○三品 陽平（愛知県立芸術大学）

肥田 武（一宮研伸大学）

11：00～

全体討議

司会：小林 万里子（岡山大学）
船寄 俊雄（神戸大学）

9：00～9：30

教師知識研究における pedagogical knowledge 概念の変化

○藤井 真吾（筑波大学大学院・院生）

9：30～10：00

教師教育における「モデリング」に関する考察

○長沼 正義（広島大学大学院・院生）

10：00～10：30

ヴァイマル期ドイツにおける国民学校正教員資格試験に向けた実習

○藤井 利紀（名古屋大学大学院・院生）

10：30～11：00

唐澤富太郎の『教師の歴史』から『教育博物館』へ

○土井 進（淑徳大学）

11：00～11：30

琉球政府期の沖縄における文部省派遣教育指導委員と彼らによる研修内容

○近藤 健一郎（北海道大学）

11：30～

全体討議

司会：桑原 敏典（岡山大学）
森 透（福井医療大学）

9：00～9：30

社会科教員養成における初年次ゼミナールの設計と実践

○藤崎 聖也（信州大学）

9：30～10：00

英語教員志望生を対象とする英国大学短期研修の教育的意義

○小嶋 英夫（文教大学）

10：00～10：50

省察的実践力を育む国際連携の構築と実践

—国際教育実習・海外教員研修の受け入れ事例

○王 林鋒（福井大学連合教職大学院）

○半原 芳子（福井大学連合教職大学院）

○稲葉 敦（福井大学連合教職大学院）

10：50～

全体討議

司会：川村 光（関西国際大学）
佐々木 司（山口大学）

9：00～9：30

開発途上国におけるカンニング行為

—教師と児童・生徒の関係性に着目して

○前田 美子（大阪女学院大学）

9：30～10：00

「学校の安全・安心」に関するアンケート調査

○池田 隆英（岡山県立大学）

福本 昌之（大分大学大学院）

難波 知子（川崎医療福祉大学）

10：00～10：50

学校安全に関する組織文化論的考察

—高校生の安全意識に注目して

○福本 昌之（大分大学大学院）

○難波 知子（川崎医療福祉大学）

池田 隆英（岡山県立大学）

10：50～11：40

子どもの事実から学ぶことはどのように可能になるのか

—二人称アプローチの視点から

○永島 孝嗣（一般社団法人麻布教育研究所）

○村瀬 公胤（一般社団法人麻布教育研究所）

11：40

全体討議

司会：牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
岡村 健太（美作大学）

9：00～9：30

教職課程コアカリキュラムに対応した「教育課程論」の実践と効果（1）

○新井 英志（天使大学）

9：30～10：20

「教職志望学生の授業指導力を育成する＜分かちあい＞授業研究に関する
ライフストーリー的考察

—学部3年後期授業研究スタート・教育実習事前事後授業研究，先輩
OB 参加授業研究と後輩指導，海外授業研究体験から

○小島 勇（東京電機大学）

○徳武 隼人（東京電機大学・院生）

10：20～10：50

学生の授業力向上を目指す実践的な指導における一考察

—実習生と既卒現役教員への調査より

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

10：50～11：20

保育者養成課程における講義のシラバス分析と課題に関する考察

—「教育方法論」を中心に

○中塚 健一（小田原短期大学）

時田 詠子（群馬医療福祉大学）

田中 卓也（静岡産業大学）

11：20～

全体討議

司会：玉井 康之（北海道教育大学釧路校）
原 清治（佛教大学）

9：00～9：30

へき地校に勤務する初任期教師の養成段階から現在までの成長研究
－授業に着目して－

○浅井 千愛（北海道大学大学院・院生）

9：30～10：00

小規模校・少人数学級の授業改善に求められる教師の指導力

○伏木 久始（信州大学）

10：00～10：30

地域創造型教育がバナンスの構築と教員養成の課題

○宮前 耕史（北海道教育大学）

半澤 礼之（北海道教育大学）

小林 淳一（北海道教育大学）

10：30～11：20

小学校における地域の教育資源活用と教科横断を目指したカリキュラム・
マネジメント

○香曾我部 琢（宮城教育大学）

○高野 寛男（山形大学大学院教育実践研究科）

11：20～

全体討議

「教師教育者」の実践と葛藤
—教師の力量形成における教科教育の役割—

【趣 旨】

「研究推進・若手交流支援企画」では、「教師教育の実践と研究」と題し、これまで5回の企画を行った。今年度の全国大会では、これらの関心を引き継ぎ、「教師の力量形成における教科教育の役割」を考えたい。

近年、教職課程コア・カリキュラムの実施、既設大学院の教職大学院化が進んでいる。こうした動向の中で、あらためて、各教科等が連携・協働して、教師の力量形成を考え、実践していくことが求められている。“私たち（教師教育者）”は、どのように教師の力量形成に寄与していくことができるのか。

提案者の方々には、教師教育の実践をご報告いただくとともに、その悩みや葛藤を語っていただく。「初等・中等教育の教員や大学教員が、それぞれの現場における自分自身の教師教育の実践を振り返る機会」および「教師教育研究について共に考える機会」としていきたい。また、参加者の所属や経験を超えたディスカッションの場を設定し、会員相互のネットワークを構築する。今回は、教科教育（家庭科・生活科・社会科・国語科）に関わる教師教育者の方々にご登壇いただく。多くの方々にご来場いただきたい。

【担当理事／企画】

鹿毛 雅治（慶應義塾大学），高旗 浩志（岡山大学），前田 一男（立教大学）

【学会幹事／企画・司会】

前半：望月 耕太（神奈川大学），渡邊 巧（広島大学）

後半：沖 奈保子（東京都立国際高等学校），小田 郁予（東京大学・院生），
田中 里佳（上野学園大学）

【報告者】

- 1) 大西 慎也（京都ノートルダム女子大学）
- 2) 大村龍太郎（東京学芸大学）
- 3) 兼安 章子（福岡教育大学）

【指定討論者】

藤原 颯（福山市立大学）

【趣 旨】

第29回総会では、研究倫理規程が提案される。この研究倫理規程案は、研究倫理規程ワーキンググループを中心に1年半検討してきたものである。

まず、本学会としての研究倫理規程の原案を、国内外の研究倫理規程を参考にワーキンググループが作成し、会員からのパブリックコメントを2018年6月より8月まで募集した。さらに、2018年12月8日には、公開ミーティングも行った。それらの意見を受けて、ワーキンググループ内で原案を検討・修正し、研究部会で検討し、理事会での協議を経るという手続きをとってきた。

総会での採決を前に、研究倫理規程案についての理解を深めることをめざして本学習会を設定した。多くの会員の参加をお願いしたい。

【司 会】 研究部会長 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

【報告者】 研究倫理規程ワーキンググループ 担当理事 紅林 伸幸（常葉大学）
「教師教育の今日的状況と研究倫理」

日本教師教育学会 第29回定期総会

日時： 2019年9月21日（土） 13：30～14：45

会場： 岡山大学教育学部講義棟2階5202教室

議事

1. 大会校からの挨拶（岡山大学）
2. 日本教師教育学会会長挨拶
3. 議長団選出
4. 報告事項
 - (1) 一般会務
 - (2) 研究部活動
 - (3) 年報編集委員会
5. 審議事項
 - (1) 研究倫理規程について
 - (2) 電子選挙システムの導入について
 - (3) 2018年度決算
 - (4) 2018年度監査報告
 - (5) 2019年度予算
6. 2020年度 第30回研究大会開催校
7. 議長団退任

連絡事項

*総会に先立ち、同会場で「研究倫理規程学習会」を開催します。総会の議題にかかわる内容ですので、ぜひご参加ください。

教員養成・教師教育研究の高度化
—教科指導に係る教師の実践的力量形成—

【趣 旨】

教員養成・教師教育研究の高度化には2つの視角が必要です。ひとつは既存の教員養成教育や教師教育研究の準拠枠を解き明かし、その枠組自体を問い直す視角です。いまひとつはこのメタ分析的関心を共有し、現に動きつつある実態に分け入って課題を詳らかにする視角です。本学会はまさにこの2つの視角を往還しつつ、より質の高い教員養成・教師教育研究を求め、その成果を世に問うてきました。

「教員養成・教師教育研究の高度化」というテーマに、このシンポでは「教科指導に係る教師の実践的力量形成」という副題で迫りたいと思います。本会の研究推進・若手交流支援企画の取組が明らかにしている通り、本会の強みのひとつは教科固有の実践知と力量形成を「教師教育」というプラットフォームで共有できることです。

この副題に関連する課題を並べてみると、①若手教員の急増に伴う授業の質保証、②①を支える校内研修・校内OJTチームの組織化と運用、③教員養成教育のDPと教員育成指標の「採用時に求める姿」との関係、④拡充期を迎えた教職大学院における「教科の指導力向上」への対応、⑤④に係る教科教育研究者のアイデンティティ、⑥新免許法における教科教育と教科内容の融合科目とその実質化、⑦教職大学院の履修証明制度を活用した現職教員の教科指導力向上、⑧指導教諭を活用した校内研修（授業改善）の高度化、⑨学術研究の成果を踏まえた「教科」の枠組の再考等、現実的な議論を必要とするミクロレベルからマクロレベルまでの様々な課題が浮かびます。それぞれを丁寧に解きほぐしつつ、繋いでいく努力が必要となります。

「教員養成・教師教育研究の高度化」の着地点のひとつは、「より優れた教科の実践的指導力とは何か?」、「その実践的指導力を培う仕組みとコンテンツはどのようにあるか?」という問いに何らかの回答を提示することにあります。中国地方で初めて本学会研究大会を開催するこの機会に、この問いをめぐる会員相互の積極的な参画を頂ければと思います。

【シンポジスト】

- 1) 武田 信子 (武蔵大学) 「教科指導の実践的力量形成 [以前]」
- 2) 松友 一雄 (福井大学) 「教師の「見とり」と「インターベンション (介入)」の内実と質的向上を目指した研修の実態」
- 3) 吉村功太郎 (宮崎大学) 「教職大学院における高度な教科指導力形成
—教科教育学が果たしうる役割とは—

【司 会】紅林 伸幸 (常葉大学) ・高瀬 淳 (岡山大学)

9月22日（土）大会第2日

自由研究発表（2）

ポスター発表

課題研究

特別課題研究

ラウンドテーブル

司会：久保 富三夫（立命館大学）
浜田 博文（筑波大学）

9：00～9：30

教師コミュニティで文化はどう共有されるのか
—教師のナラティブに着目して—

○志津田 萌（東京大学大学院・院生）

9：30～10：00

若手教員と共に成長するミドルリーダー
—弘前大学教職大学院の学校実習を通して—

○中妻 雅彦（花園大学）

10：00～10：50

「学び続ける教員」を支える学校組織風土の研究

○三沢 良（岡山大学大学院）

○森安 史彦（岡山大学大学院）

樋口 宏治（岡山市立伊島小学校）

10：50～11：40

職場における協働経験が教師個人のチームワーク能力に及ぼす影響

○米沢 崇（広島大学）

○中井 悠加（島根県立大学）

11：40～

全体討議

司会：岩田 康之（東京学芸大学）
富江 英俊（関西学院大学）

9：00～9：30

教師の力量を形成する校内研修プログラムの開発

○鶴田 百々（九州大学大学院・院生）

9：30～10：00

シンガポール日本人学校における同僚性の研究

○中島 ちさと（筑波大学大学院・院生）

10：00～10：50

対話的な校内研修の手法「Round Study」の効果の有用性についての検証
と考察

○原田 三朗（四天王寺大学）

○伊東 大介（東村山市立青葉小学校）

10：50～

全体討議

司会：池田 隆英（岡山県立大学）
早坂 めぐみ（秋草学園短期大学）

9：00～9：30

視覚障害のある教員の学級担任業務に対する支援

○中村 雅也（立命館大学大学院・院生）

9：30～10：00

MI理論の視点からみた授業実践

— 『とびっこ遊び』を事例として—

○中村 彩歩（岡山大学大学院・院生）
今井 康好（岡山大学大学院）
酒向 治子（岡山大学大学院）

10：00～10：30

保育者養成校での子育て観

○中山 美佐（大阪樟蔭女子大学）

10：30～11：00

保育者養成における資質・能力に関する一考察

○赤嶺 優子（沖縄キリスト教短期大学）

11：00～11：30

子どもの複言語発達を保障する保育・教育に求められる専門性の検討

○内田 千春（東洋大学）
齋藤 ひろみ（東京学芸大学）

11：30～

全体討議

司会：大和 真希子（福井大学）
伏木 久始（信州大学）

9：00～9：30

初任・若手教師をサポートするメンタリング機能
—附属中と公立小の事例を通して

○後藤 郁子
（お茶の水女子大学基幹研究院・研究員）

9：30～10：00

「新任臨時的任用講師研修プログラム」実践報告

○杉山 正典（（株）早稲田アカデミー）

10：00～10：50

リフレクションへの志向性の育成について

—学部と教職大学院の取り組みの実際

○若木 常佳（福岡教育大学）
○矢野 博之（大妻女子大学）
○藤原 颯（福山市立大学）
○宮本 浩治（岡山大学大学院）

10：50～11：20

社会科授業実践のための「資質・能力」育成を目指す教員養成教育の取組

○大西 慎也（京都ノートルダム女子大学）

11：20～

全体討議

司会：小柳 和喜雄（奈良教育大学）
難波 知子（川崎医療福祉大学）

9：00～9：30

新設大学子ども教育学科におけるキャリア形成への試み
— 1年次の小学校教員養成に焦点を当てて

○辻 伸幸（和歌山信愛大学）

9：30～10：00

教育学と看護学の質保証をめぐる議論とその課題

○森 透（福井医療大学）

10：00～10：50

専門職養成におけるチュートリアル教育の意義と課題
— 教員養成・医師養成を中心に

○松永 幸子（東京女子医科大学）

○浦野 弘（埼玉学園大学）

10：50～11：40

次世代型教員養成の在り方に関する予備的考察

高校生を対象とする奈良県次世代教員養塾受講生への質問紙調査等の
結果から

○石井 宏典（奈良県立大学）

○奥田 智（日本大学）

11：40～

全体討議

司会：木原 俊行（大阪教育大学）
吉岡 真佐樹（京都府立大学）

9：00～9：30

教師の貧困観はどのような成立背景を持つか

○栗原 和樹（一橋大学大学院・院生）

9：30～10：00

異年齢集団における学習指導経験に見られる教師の成長

○松田 雅代
（兵庫教育大学大学院・研究生）

10：00～10：30

学校の就学援助率と教員の労働時間に関する検討

○石島 照代
（東京大学大学院教育学研究科）

10：30～11：00

教師の任用形態による意識の特徴に関する一考察

—「教師の生活・意識・誇り・専門性と教育改善の可能性に関する調査」から

○和井田 節子（共栄大学）
藤田 英典（共栄大学）

11：00～

全体討議

司会：福島 裕敏（弘前大学）
三村 和則（沖縄国際大学）

9：00～9：30

ルーブリックを用いた教育実習指導

○實藤 大
（広島大学附属福山中・高等学校）

9：30～10：00

教職希望学生と共に「フィールドワーク」の有効性を考える

○古家 正暢（帝京大学）

10：00～10：50

学校現場実習に対する学生の意識の変化

— 1年間の追跡調査のデータを用いて

○関塚 麻由（秀明大学）
○荒井 明子（秀明大学）
○岡 敬一郎（仙台白百合女子大学）

10：50～11：40

学校インターンシップは教育実習の機能をどこまで代替できるか（Ⅱ）

○原 清治（佛教大学）
○古市 文章（佛教大学）
○浅田 瞳（華頂短期大学）
森田 真樹（立命館大学）
芦原 典子（京都栄養医療専門学校）

11：40～

全体討議

司会：赤星 晋作（広島市立大学）
佐藤 園（岡山大学）

9：00～9：30

『家庭部会報』にみる高校家庭科教師の専門性発達に関する研究
—1960年代を中心に

○計良 智子（東洋大学大学院・院生）

9：30～10：00

北部九州の大学における商業科教員養成に関する実態と課題

○高木 正史（別府大学）

10：00～10：30

課題解決型学習の導入と教師の対応

○桜庭 望（宇宙航空研究開発機構）

10：30～11：00

思考力向上を目的とした教育の効果検証と教師教育の課題
—宇宙教育からの知見

○香川 奈緒美（島根大学）

桜庭 望（宇宙航空研究開発機構）

11：00～11：30

総合的な学習の時間の指導力向上及び実践研究について

○宇佐見 香代（埼玉大学）

11：30～

全体討議

①現職教員の学び直しによる視野変化の意義

○備瀬 美香 (東京大学大学院・院生)

②「チーム学校」の実現をめざすアクションリサーチ
—学校教育版 TPE/IPE の試み—

○肥田 武 (一宮研伸大学)

三品 陽平 (愛知県立芸術大学)

③教員養成大学の学生における「地域と教育の関係の捉え方尺度」の開発

○半澤 礼之 (北海道教育大学)

宮前 耕史 (北海道教育大学)

④実践的指導力養成を目指した高大連携プログラムに関する考察

○五十嵐清子 (文化学園大学)

森谷 直樹 (文化学園大学)

⑤外部人材活用のガイドラインについての一考察

—キャリア教育での実践事例を通して—

○伊藤 良介 (加古川市立氷丘南小学校)

⑥学生に記述式答案をさせて

○村石 幸正 (中央大学)

⑦日本語教師研修のための CanDo リスト

○松岡 洋子 (岩手大学)

足立 祐子

(新潟大学グローバル教育センター)

⑧日本語担当教員の実践知を学級担任に伝える

—「パートナーシップティーチング」の試み

○菅原 雅枝

(東京学芸大学国際教育センター)

⑨授業作りを教える方法としてのシナリオ作成の意義—ケースの開発

○佐藤 英二 (明治大学)

⑩与田準一における童謡観の形成と『赤い鳥』を通じた芸術教育

○田中 卓也 (静岡産業大学)

⑪中学校保健体育科教員の授業力量形成に関する研究

—キャリアステージの違う教師に対するアクション・リサーチの実践から—

○山田 淳子 (滋賀県草津市立老上西小学校)

辻 延浩 (滋賀大学教職大学院)

教師教育研究の成果と課題の検討（その2）

—これからの教職の在り方を問い直す—

【趣 旨】

今期の課題研究 I 部会では、『教師教育研究ハンドブック』（2017年）の部構成を手がかりにして、これまでの教師教育研究の研究レビューを積み重ね、教師教育研究の全体マップを作成することを目指しています。昨年の大会では同書の第一部に収められた3つの章をピックアップしてそれぞれの章に関連する研究成果や課題等について検討しました。

今回は、部会内の議論を進めてくる中で重要なポイントとして浮かび上がってきた論点を3人のメンバーから報告してもらい、参加者の皆様と一緒に討議してみたいと思います。論点はかなり幅広いものになると思いますが、「これからの教職の在り方を問い直す」という方向で討議できればと考えています。

【司 会】浜田 博文（筑波大学）

【報告者】

1) 朝倉 雅史（早稲田大学）

「教師の専門的能力と「学び」から教職を問い直す
—先行研究と概念の検討を中心に—」

2) 田中 里佳（上野学園大学）

「教師教育者に関する研究動向と今後の課題
—成人学習論の視点を加えての提起—」

3) 村井 大介（静岡大学）

「誰の視点から教職を問い直すのか
—「教育職員免許状」に関する言説を事例にして—」

教師教育改革の国際動向と比較研究の課題
—教師教育における社会的公正の観点と課題—

【趣 旨】

課題研究Ⅱ「教師教育改革の国際動向と比較研究の課題」部会では、「教師教育における社会的公正の観点と課題」をテーマとする研究を昨年から実施している。子どものニーズが多様化するなか、社会的公正の視点を有する教育や、そうした教育の担い手を育成するための教師教育が必要とされている。しかし、こうした課題は、本学会の過去の課題研究において充分に対象化されてきたとは言い難い。そこで今期は教師教育において社会的公正概念がどのように捉えられ、実践されているのか、各国・地域の取り組みに即して分析しながら、教師の職業的自律性や、それに基づいた教師教育の自律的改善システムなどについて検討している。

教育の課題は国や地域によって異なり、また何を課題とするかによって社会的公正や社会正義の概念や捉え方も異なっている。昨年の第28回大会ではアメリカの取り組みに焦点化し、社会正義の観点から教師教育の課題を捉えた。第29回大会では、教師教育における社会的公正を考えるための理論的・概念的枠組みを整理しながら、ヨーロッパの取り組みについて検討することにした。それを踏まえ、日本の教師教育について考えるための論点を提示してみたい。

【司 会】吉岡 真佐樹（京都府立大学）・佐藤 千津（国際基督教大学）

【報告者】

1) 田中 潤一（大谷大学）

「社会的公正を実現する教員養成—哲学的観点から—」

2) 中山あおい（大阪教育大学）

「ドイツの学力向上政策と社会的公正のための取り組み
—教師教育の観点から—」

3) 斎藤 里美（東洋大学）

「外国にルーツをもつ子どもと教師教育改革
—OECD『多様性のための教師教育』からみた日本の教師教育政策—」

教師教育『高度化』の政策的検討

—修士レベルの教員養成教育の再検討：教職大学院の実践に学ぶ—

【趣 旨】

課題研究Ⅲ「教師教育『高度化』の政策的検討」部会では、近年の教師教育の動向を構造的に把握すべく、近年の教師教育政策が生じるメカニズムを解析するとともに、そうした政策が教師教育の実際の現場(実践)にどう投影されているかを検証し、今後の教師教育の政策と実践を考える上で重要な論点を提示することを企図しています。

今回のセッションでは、これまでの原理的な検討（教職大学院の創設をめぐる諸論点、1980年代以降の「教育学部」の改革動向等々）を踏まえ、教職大学院での実践と運営の課題について、いわゆるストレートマスターを対象とした入職前の教員養成教育の実践例を素材に検討を行いたいと考えます。

教職大学院の増設が続く中、これまでの学部レベルの教員養成教育と比して、どのような「+ α 」があったのか、その「+ α 」を可能にする要件は何か、運営の課題としてはどのようなことがあるか等々、日本の教員養成を今後修士レベルに「高度化」させていく際の具体的な課題を、フロアの方々と一緒に考える場としたいと思えます。

【コーディネータ】岩田 康之（東京学芸大学）・渡辺 貴裕（東京学芸大学）

【報告者】

1) 渡辺 貴裕（東京学芸大学）

「教師教育の「高度化」が直面しうる困難
—「変革」と「適応」の狭間で—

2) 阿部 隆幸（上越教育大学）

「主体的・対話的・協同的なゼミ運営の試み」

3) 藤井 佑介（長崎大学）

「省察と実践研究に関する認識と課題
—多様な省察場面を意識したカリキュラム改革の挑戦—

防災・学校安全と教師教育

—地震・津波減災の教師教育カリキュラムを見通す—

【趣 旨】

当部会は、大学教職課程の防災教育や安全教育（以下、防災・安全教育）のカリキュラム試案とガイドライン、およびヒント集として、学校教員も活用できる報告集の作成をめざしている。今大会では、教育行政と企業の立場からの報告を受けて討論を行い、参加者全員で防災管理と防災教育の両方にとって実用的なワークショップも試みる。

【司 会】神永 典郎（白百合女子大学）・吉田 尚史（独立行政法人 教職員支援機構）

【報告者】

1) 吉門 直子（高知県教育委員会・元 文科省初等中等教育局安全教育調査官）

「防災教育の学習指導要領と高知県の実践」

高知県は、最大で 34 メートルの津波が想定される南海トラフ巨大地震や大雨による洪水、土砂災害を念頭に置いた防災教育を進めており、「実践的防災教育推進事業」「高知県防災教育推進フォーラム」「防災キャンプ推進事業」「高知県高校生津波サミット」などの事業を展開している。また、独自教材「南海トラフ地震に備えちよき」を開発し、すべての教職員が一定程度の質を保持したミニマムエッセンシャルズとしての防災教育を実践できるシステムを作っている。先駆的な実践を行っている高知県の現状の報告から、防災・安全教育における教師支援、学校支援の在り方を考えたい。

2) 中村 孝・榊原 隆（株式会社明石スクールユニフォームカンパニー）

「産学連携による防災教育テキストの作成と意義」

明石スクールユニフォームカンパニーは岡山県倉敷市児島に本社を置き、制服の販売を主業とする企業である。防災関連事業を始め、ユニセフ支援活動、日本ライフセービング協会支援など様々な社会貢献活動を進めている。2017 年に神戸学院大学と産学連携プロジェクトを開始し、小中学校対象の防災学習ワークブックや防災学習かるたを開発した。また、各地で教職員を対象とした防災セミナーを開催して、防災教育にとりくむ学校を支援している。学校という枠を超えた防災・安全教育の支援の在り方について参加者と討論を深めたい。

3) 諏訪 清二（兵庫県立大学）

ワークショップ「そのときあなたは？」

災害後の様相を時系列に沿ってできるだけリアルに想像し、直面する課題を整理し、その解決策を考えることで、「防災管理力」の向上を経験しよう。

大学教育と教職課程
—教師教育改革の動向と課題—

【趣 旨】

特別課題研究Ⅱは、2017年の教育職員免許法施行規則改正に伴う、各大学の再課程認定申請時に表面化したさまざまな問題に端を発し、今日的な視点からあらためて大学における教職課程について理論化することを目的として、昨年度総会の承認を経て発足した。これまで、再課程認定に関する情報収集を目的に全会員を対象としたアンケートを実施するとともに、結果報告をふまえた研究会（シンポジウム）を行った。

その後も、「教職課程の質保証」「教科に関する専門的事項のコアカリキュラム」のあり方、さらには日本学術会議における「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準（教育学分野）」の作成といった、教師教育に関する大きな改革への対応が迫られている。これについては、研究会や、本学会と日本教育学会東京地区との共催で6月15日に公開シンポジウム「教師教育改革を問い直す」を開催した。

本特別課題研究Ⅱでは、これまでの議論をふまえつつ、年報特集とも連動させながら以下の3名から報告をいただき、それぞれの動向や課題について議論する。中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会では、教職課程の基準および教員養成のフラッグシップ大学に関する検討ワーキンググループが発足しており、今後はこれらに関する検討を予定している。今回の議論を通して、参加者からご意見や要望をいただきながら、それらの活動への橋渡しとなる会としたい。

【司 会】 樋口 直宏（筑波大学）・三村 和則（沖縄国際大学）

【報告者】

- 1) 勝野 正章（東京大学）
「開放制教員養成を考える」
- 2) 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
「教職課程質保証の動向」
- 3) 高野 和子（明治大学）
「教育課程編成上の参照基準（教育学分野）について」

①日本教師教育学会における質的研究についての再検討 (於：3階 5307 教室)

■企画者・登壇者

- 三品 陽平 (愛知県立芸術大学)
肥田 武 (一宮研伸大学)
田中 里佳 (上野学園大学)
村井 大介 (静岡大学)
朝倉 雅史 (早稲田大学)
高野 貴大 (筑波大学大学院・院生)

■概要

日本教師教育学会ではこれまで、大会発表においても年報においても多くの質的研究がなされてきた。その背景には、学術界における近年の質的研究の隆盛のほか、教師の実践の語りに大きく依拠してきた（そして現在も依拠している）教師教育（学）の歴史的特徴や、教師の学びと教師の生きる意味世界との本質的つながりなどがある。したがって、日本教師教育学会において質的研究は今後も重要であり続けると考える。

しかし、それにもかかわらず教師教育学会において質的研究はいまだ不可解なものであり続けてもいる。例えば「質的研究と実践報告の違いは何か?」「量的研究と質的研究の違いは何か?」「一事例から一般化できるのか?」「今の日本教師教育学会の研究発表形式は質的研究にあっているのか?」など。その他の疑問も含め、各自が抱く疑問を一度出し合い、整理・検討することは教師教育学会にとって意義があると考えられる。

②教師養成と子ども文化（3）遊ぶことができる教師がいなくなった

—令和新時代にむけて

（於：4階 5407 教室）

■企画者・登壇者

田中 卓也 （静岡産業大学）

中塚 健一 （小田原短期大学）

時田 詠子 （群馬医療福祉大学）

香曾我部 琢（宮城教育大学）

■内容

昭和、平成と時代が移り、さる5月1日に令和新時代を迎えました。教師はますます勤務時間が増大する中で体調を崩す者も少なくありません。「働き方改革」が叫ばれるようになってもはたして教師の多忙さは解消の方向に進んでいるのでしょうか？そんななか「灘高校教師の『遊びながら学べ』を教え続けたエピソード」, 「遊びが将来の子どもどもの力になる」, 「子どもと上手にコミュニケーションをとる先生」などがクローズアップされてきています。

令和新時代にむけて、今一度「教師と遊び」について考えてみたいと思います。シンポジストのみなさんには、現場での経験やエピソード、または身近にいる先生をとりあげていただき、特徴や改善策など検討していただくことができればと思っています。保育・幼稚園の現場から、小学校、中学校現場にいたるまで広範囲でのものとなります。